

経営比較分析表（令和2年度決算）

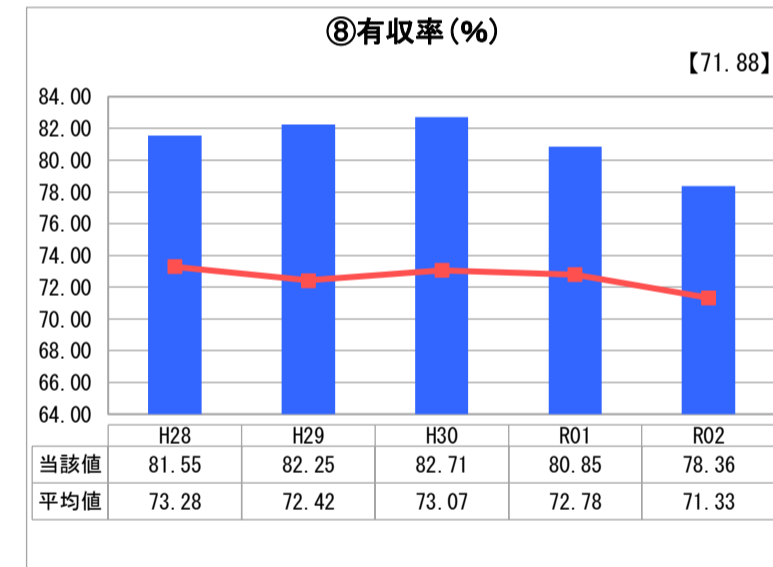
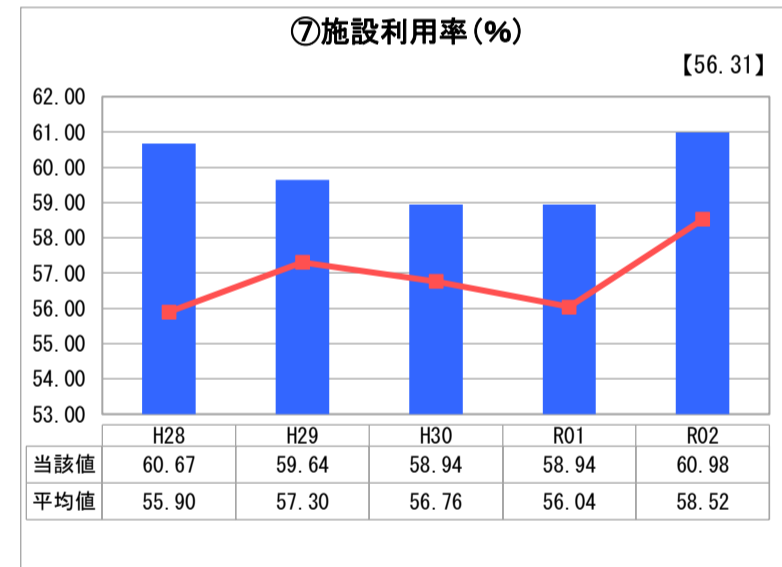
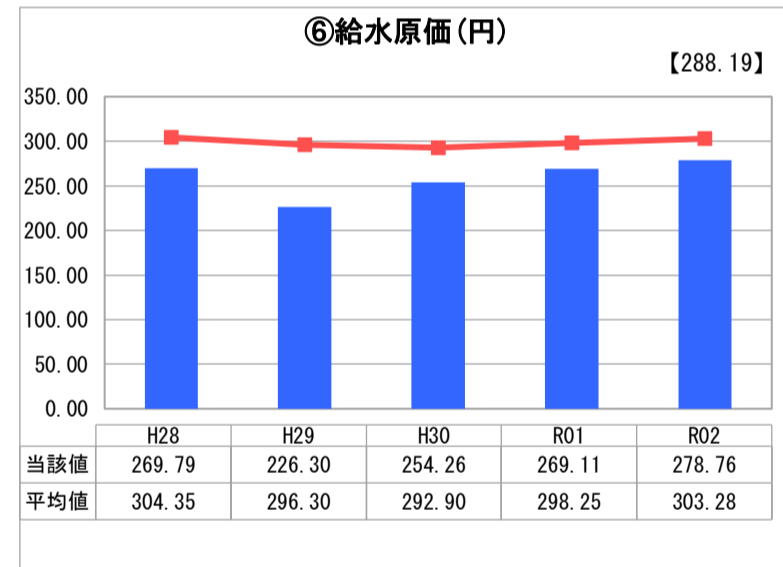
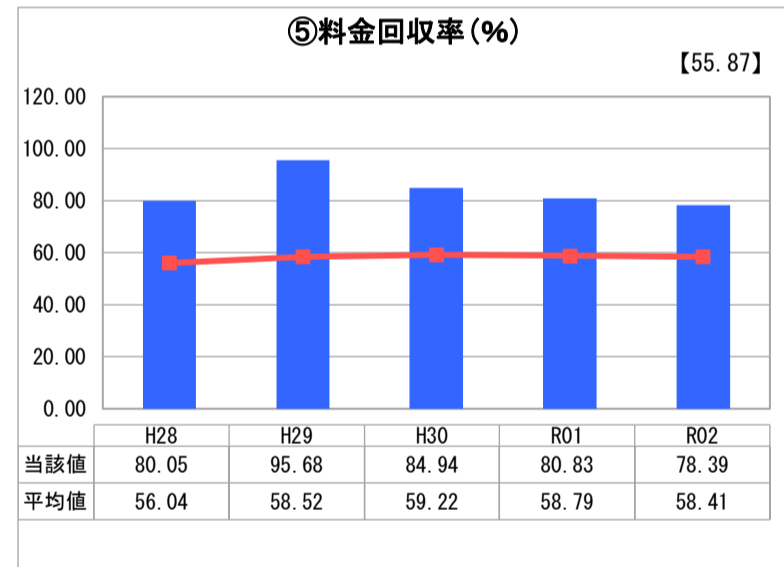
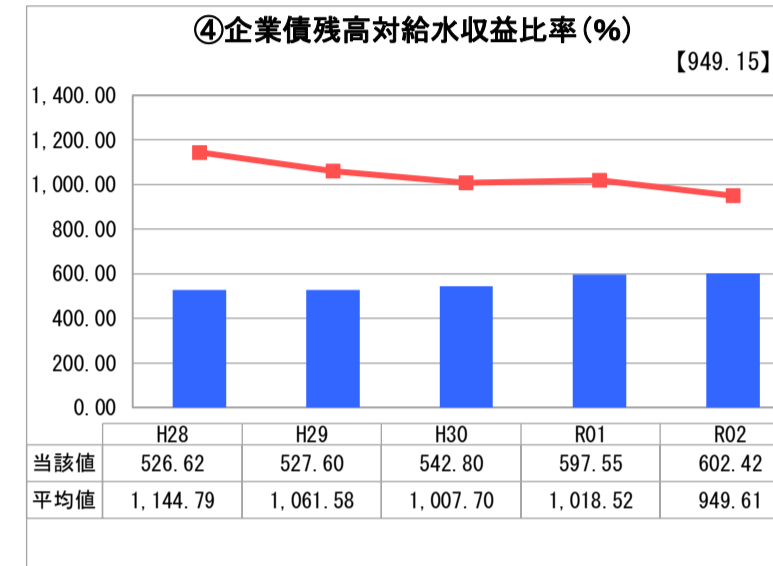
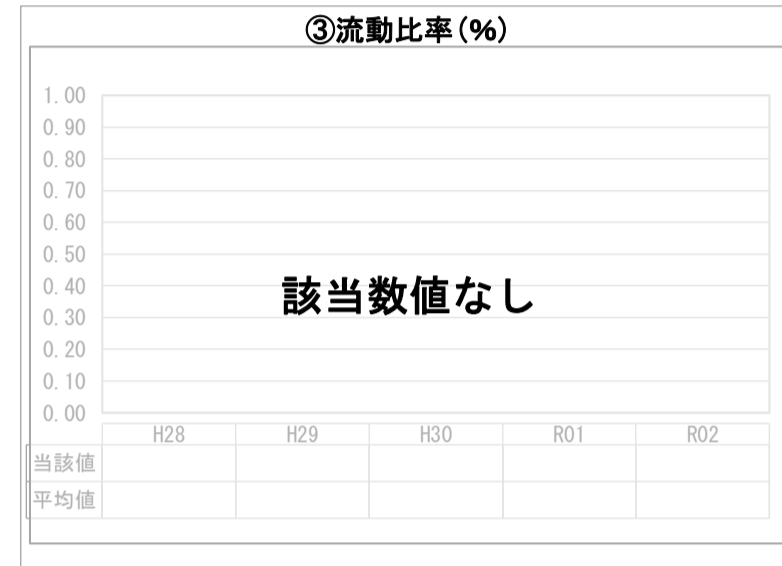
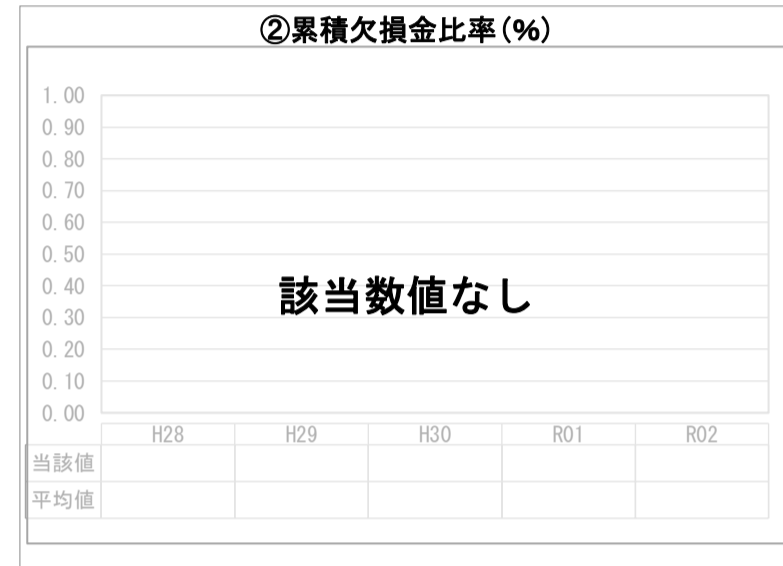
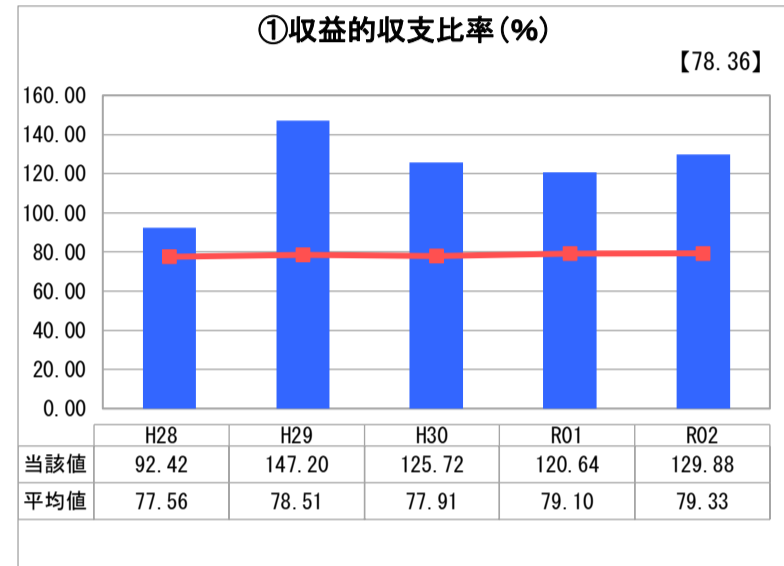
岩手県 普代村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	97.88	3,540	

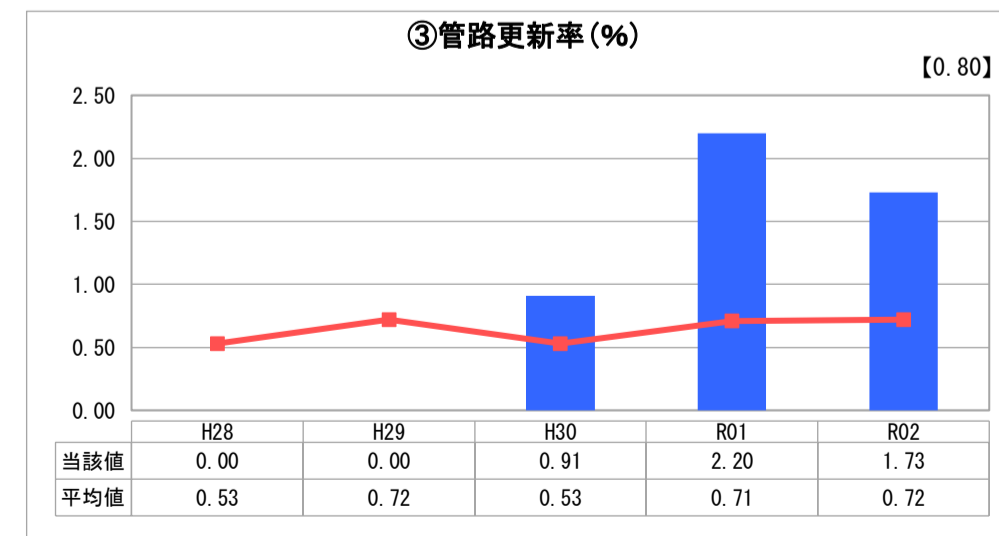
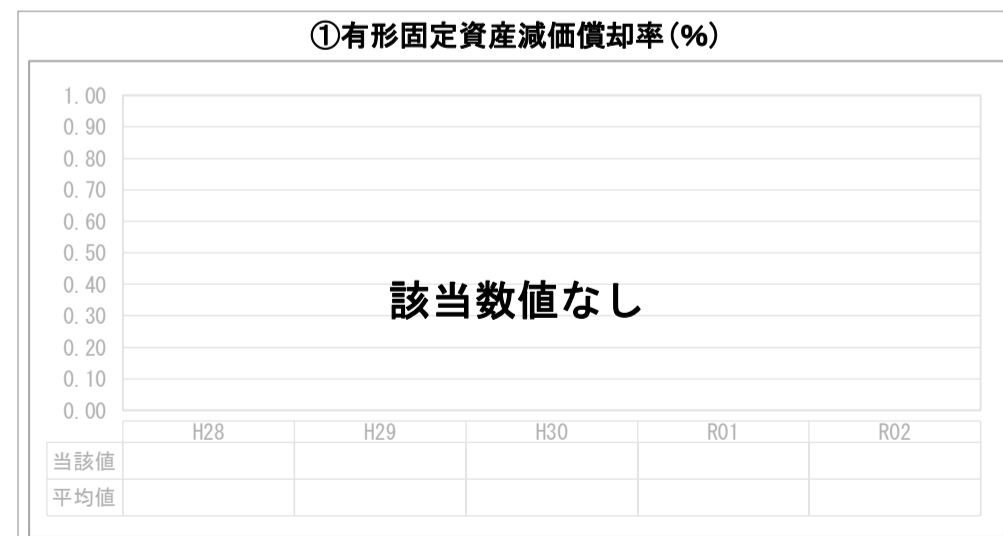
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,570	69.66	36.89
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,491	11.50	216.61

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

各指標をみると、類似団体との比較では概ね良好な数値となっているものの、個々の指標は悪化しており、経営状況は年々厳しさを増している。特に、料金回収率や有収率の低下が顕著となっており、使用料の見直しや老朽管の定期的な更新及び水系毎に規模の適正化を図ることが、今後の健全経営にあたり必要となる。

2. 老朽化の状況について

管路・施設共に法的耐用年数を超えてもなおそのままの状況で稼働しているものが多くある。老朽管の更新は徐々に進んでいるものの、管路以外の設備については、その多くが都度修繕を行いつつ稼働している状況で更新は進んでいない。また、事業拡張時に布設された塩化ビニール管についても法的耐用年数に到達しつつあることから、その更新についても検討が必要である。

全体総括

水道施設は、日常生活や地域の産業活動を営む上で必要不可欠であり、常に利用者に安全で安心な水道水の供給を行うことが求められている。本村の簡易水道事業は、昭和38年の創設当初に想定していた状況と大きく異なる社会情勢の中、更なる人口減少を見据えた施設の統廃合や規模の適正化を検討する必要がある。水道使用料のみでは経営が成り立たない状況ではあるが、水道事業の重要性からも一般会計からの繰入は継続し、経営を維持する。その上で料金の見直しや維持管理費用等の必要経費について検証を行い、経営の健全化・効率化に努める。